

SHATE-TAMA



FOR ADULT ONLY

R-18

——女性クルーから
男とデートさえしたくない
ことを驚かれたシャタタは……

「あんなみたいな
エロ目的みえみえの
オッサンは
お呼びじゃないの!」

プライベートビーチで
デートに誘ってくる男を
待っていた——

「もうっ…アサヒのバカが
誘ってくればこんな
事しなくても……」

「ねーねー」





「チャライ奴等ね…
まあさっきのエロオヤジよりは
マシかじら…それに…」

「こいつ等と一緒にゴハン
食べれば男とデートした…って
ことになるわよね」

「いざとなったら
こんな奴等振り払える
自信もあるし……」

「君、ここ初めて？
俺達この辺地元だからさ
連れがいないなら飯
一緒に食わない？」
「変な誘いとかじゃ
ないからマジで♪
女の子一人じゃこの辺
危ないからさっ♪
悪い男も多いし」

「いいわよ
付き合っ
てあげる」



「ひっ…んっ…!!」

「へえー
シヤツテちゃんって
ロボット工学の天才って
言われてるんだ♪
頭いいんだねっ」

「でもさあ…
勉強だけじゃなくて
世間のことも
知った方がいいって」

「彼氏君のこともブっ飛んじやう
お薬あげまちゆからねる♪」
ブスっ……!

「な…何…こへ…ひつ?!
あああああああ!!」

「手えつ!腕っ!!
は…外じ…うひつ♡
んぎいいいつつ!!」
「足だけ自由にしてるよ…」

「ブツ!なんだよ?
カエルみてえ♪」
「あぎいい!んびい♡
触らしてええ!!
アソコお!アソコお!!」

「バァ」

「バァ」

「アソコってどこお?
わかんないな〜♪」
「ひいいん♡
ヴアギナあ!腫う!!
まんこお!まんこよお!!」
「うるせー!アホみてえに
野太い声出してよお
これが本当に天才なのか…」

「よ」と

「♦♡ひ△×※〜♡♡
おおおお♡♡イグイグうう♡♡♡」

「ブハハハ!今の声
聞いたか?オラ!

「もつと鳴いてみる!」
「バシンっ!バシンっ!
「ごえっ♡んぎいつ♡
おぼおお♡♡
おおおん♡」

「プシヤ♡プシヤア♡
「おいおい、壊すなよ
この薬で頭おかしく
なった女も結構いる
って話だぜ」

「ヤァ」



「ヒーヒー」
「あーあ…
無茶するから…」

「えへっ♡えへへ♡
ねえ♡」
「壊れちゃったじゃねーか…
まあいいか…チンポ狂いでも…
…依頼違反じゃねえだろ…」

「さっきまで処女で偉そうなこと
言ってたのによお、このクソビッチが
ホラ、腕も解いてやるから
ねだってみせろよ」



「いれこくださああい♡♡」

「勝手に最低な奴等…
薬を打ってこんなにしたのは
アンタ達なのに…でも…
今は…そんな事より…」

「チンポ欲しいのよお!!
いれてええ!!ビッチマン!!」
「アンタ達のテカチンポおお!!」

「そこまで言われたら
なっ♡」

「おおおお♡♡ぎだあ
いぐっ…ひあっ?
んごっ♡突がれる度
…ひおおおお♡♡」

「ぐっ♡出し入れ
する度、頭悪くなる
ぐらいキモチいいだろ♡
「いいいつ♡一突きで
10一つ下がるうう♡
頭バガになるうう♡」

「うぐっ♪やべえ…射精るっ!!」
「んぶうん♥♥」
「おい、生はダメって
言われてんだろ?」

「このピッチ…
マンコの使い方が
上手くなってやがる
さすが天才だねえ♪」
「う…へへ♥
生で射精…ダメなのに
あんごおい♥んへへ♥
薬とザーメンもって
ちよ〜らしい♥♥」

えへへ♥
ちんぽみ♥

「くっ♪これが天才…ねえ♪
おい!エロ女、薬とチンポが
欲しいなら…この人に
せがむんだな」
「く……っ!」

— 次の日

「……おじさまあ〜♥」

「お?…君は
昨日ワシの誘いを
断った…シャッテ君
だったねえ…」

「何か用かね?
ワシも忙しい身
なんだが?」



「そんな、つれないこと
言わないでよお♡」

「おじ様が昨日あたしに
しようとしてたスケベなこと
シャッテのエロボディで
なんでもするから♡
んへっ♡えへっ♡」
しゅろ♡♡♡

「お薬ちよいだ♡♡♡」

「あの薬を使ったのかい？
それにしてもスゴい変わりようだねえ♡」

……よく言うわね……
あの男達けしかけて薬
使わせたのはアンタだって
言うじゃない！この水着だって……
変態エロオヤジ……！
……それにしても……
「チンポでかい♡」

「シャッテちゃんのおっぱいもねえ♡
薬は今持ってないがね…アレを
使えばワシの体液を摂取しただけで
同じ効果が得られるんだよ♪」
嘘…そんなことが……



「~~~~~♥♥♥」

「どうだ？頭からマンコに快感が駆け巡る…うおっ♥
……ゲッフ♥」

いゅぽ♥

「んぽっ♥んぶううん♥」
「二舐めでワシのチンポの虜か♪
こりやあ元々淫乱の素質があつたかもしれんなあ♥」

んぽっ♥

すっごい♥舐めるだけで薬打たれた直後のアクメできちやううん♥

おぼおぼおぼ

ああ♥マジで頭の中トブ♥とぶうううう◇@☆♥♪
大事なモノが全部抜けて頭の中チンポチンポチンポお♥
「うう！射精すぞ!!」
うひあ♥ザーメンなんて飲んだらああ♥♥♥

「おぼおぼおぼ♥♥♥♥♥」

「あ……♡ああ……♡」

「ふう……♡ワシは媚薬専門の

製薬会社の頭でなあ……打った薬は

まあホレ薬みたいなもんだ」

「あつ……んつう♡♡」

「お前の体も良かったぞ……

素性も調べあげたてな……

このままソレスタル何たら

には帰らずワシの嫁になって

子供をたくさん産むんだぞ♡」



「な……何言ってるの……
…確かにエロい事
するのはOKしたけど……」

「いくらキモチ良いから
って……アンタみたいな
オッサンのお嫁さんに
なんて……」

「なるよなっつ!!」
ズポッ!!
「ひいひいぎいん♡♡」

「ゲフフ♪ガマン汁でさえ
この効果だ……もしザーメンを
子宮で受けてアクメしたら……
どうなるかわかるなあ?」
わかるっ!わかるわよっ!!
Hがスゴいだけの
猿顔変態オヤジに……
逆らえなくなる……の……にっ!
「ひびっ♡ひびっ♡♡
ぬひいひい♡♡」
昨日よりもスゴいアクメえ♡
パコパコされる度に
きちやうのおお♡♡

「ぐうう!出るぞお!!」
ああ♡それでも耐えるのよっ!
ザーメンアクメなんてしたら
きつと今まで積み重ねてきた
知識やプライドや……
好きだったアイツの事まで
全部……とんじやう!
耐えて!あたしのオマン♡お!!



耐え……

ぐんぐんぐんぐん

あーっ

「はやく次っ♡次のチンポ汁っ♡
このピッチマンにぶち込みなさいよ♡♡」
「ゲフフ♪じゃあシャッテはワシの
便器嫁になるってことだな？」
「ああんっ！もうっ！！なるわよっ！
便器嫁でも専用オナホにても何でもお♡♡」
「こめんね…みんな…こんな幸せを
与えてくれる男…愛さないなんて
できないのお…♡みんな…あたしの事は
忘れ…あれ？みんな…って誰だっけ？
…思い…出せない？？」

あーっ

ぐんぐん

あははは

♡♡♡

♡♡♡

ぐんぐん

「ハアハア♡

…無理して耐えると
脳に相当な負荷が
かかるぞ……
まさか廃人になっては
おらんだろうな？」

「あ…♡うっ…♡♡
当然よお…

「…はあはあ♡
…だからあ……♡♡」

「いい子だ♪このまま半月は

ここで子作りするからなあ♡

今日から寝かさんぞお♡その後

すぐに婚姻届けを出すぞシャッテえ♪

まあ…いいが…あたしには猿顔だけど

トスケベでデカチンポの旦那が

いるんだしっ♡♡

「んふっ♡んふふっ♡

そっちこそ先に根をあげないでよね♡

ト変態の旦那さまっ♡♡」

REC 半月後



「よく言うわ♪昨日先に気絶した癖になぁ♥」
「あ…アシはアナタがザーメンに加えてオシツコまで飲ますから！イキ過ぎて死ぬかと思っただから…とにかく浮気出来ないように今日もザーメン搾りとるわよお♥んっ♥」

「んぼっ♥はぶらっ♥」
「んぐっ…♥待てシャッテ今、録画の用意が…」
「そんな事よりあたしこのラブラブペロチューでハメる方がタイジでしょ！んっ♥んへえ♥」

「浮気か…本当アサヒ君の事が好きだったんじゃないのか？」
「アサ…ヒ？…誰それ？」
「フフ…これからソレスタルビリーディングにこの映像を送ってやろうと思ったが…快楽で記憶障害が起きておるなもうワシのチンポのこと以外は頭にないか」
「何いってるかわかんないけど…今はアナタとドスケベする以外興味ないわよ♥んっ♥」

「クク♪ワシもお前がここまでエロくなるとは思わなかったぞ♥天才の名に恥じないテクを身につけおって♥ホレ、こ褒美だ…」

「んん♥へろちゅう♥
涎でイグウ♥んん♥
んっ♥もつとドスケベになるから覚悟しなさいよ♪旦那さま♥」

□奥付□

- 発行日 2014.12.30
- 誌名 シャタマ練習帳
- 著者 武田弘光
- 発行 真珠貝
- 印刷 株式会社 緑陽社
- Email pearl_shell@wing.ocn.ne.jp
- HPURL <http://pearlshell.blog56.fc2.com/>